

横浜市景況・経営動向調査 第94回（特別調査）

特別調査

市内企業の資金調達手法について

横浜経済の動向(平成27年9月)

第94回横浜市景況・経営動向調査報告(特別調査)

横浜市経済局

【調査の概要】

1. 目的・内容：横浜市の経済・産業政策の効果的な展開に必要な企業動向・ニーズを早期かつ的確に把握するために、市内企業・市内に事業所をおく企業を対象にアンケート調査及びヒアリング調査を一連の「景況・経営動向調査」として、四半期毎に年4回(6月、9月、12月、3月)実施しています。
2. 調査対象：市内企業・市内に事業所をおく企業 1,000社
回収数550社(回収率：55.0%)

	市内本社企業			市外本社企業	合計
	大企業	中堅企業	中小企業		
製造業	15 (32)	16 (27)	188 (329)	15 (25)	234 (413)
非製造業	35 (59)	88 (142)	168 (336)	25 (50)	316 (587)
合計	50 (91)	104 (169)	356 (665)	40 (75)	550 (1,000)

※()内は調査対象企業数

※規模別の定義は以下の通りです。

大企業・・・横浜市に本社を置き、資本金が10億円以上の企業

中堅企業・・・横浜市に本社を置き、資本金が以下の基準に該当する企業

製造業や卸売業、小売業、サービス業以外の非製造業：3～10億円未満

卸売業：1～10億円未満

小売業、サービス業：5千万～10億円未満

中小企業・・・横浜市に本社を置き、資本金が上記の基準未満の企業

市外本社企業・・・横浜市以外に本社を置く市内事業所

3. 調査時期：平成27年9月実施

4. その他：図表中の構成比は小数点第2位を四捨五入し表記しており、表示上の構成比を合計しても100%にならない場合があります。

目次

調査結果の概要	2
特別調査結果ー市内企業の資金調達手法について	6
調査票	19

第 94 回横浜市景況・経営動向調査（平成 27 年 9 月実施）（特別調査）

【市内企業の資金調達手法について】

- ・ 平成 27 年度の資金需要は拡大傾向で、資金繰りは改善基調
- ・ 中小企業の資金調達手法は金融機関のプロパー融資に次いで、信用保証付融資の利用割合が高い
- ・ 資金調達手法の多様化は、社債の発行、資本金借入金、クラウドファンディングの順に活用されているが、中小企業の 3～4 割程度が「知らない」と回答

【ポイント】

- 平成 26 年度と比較した平成 27 年度の資金需要の見通しは、「変わらない」が 57.6%で最も高いものの、「増加する」と回答した企業は 24.5%と、「減少する」(5.6%) に比べて 18.9 ポイント上回っている。また、資金繰りは『改善した』(20.6%) が『厳しくなった』(16.8%) を 3.8 ポイント上回り改善基調となっている。
- 主な資金調達手法については、中小企業では「金融機関のプロパー融資」(37.2%) の利用割合が最も高く、次いで『信用保証付融資』が 27.0%と高く利用されている。
- 中小企業における資金調達手法のうち、社債の発行(私募債)は、「利用している」が 6.2%で、「知らない」が 31.5%となっている。資本金借入金は、「利用している」が 1.7%で、「知らない」が 43.8%となっている。「クラウドファンディング」は、「利用している」が 0.6%で、44.7%が「知らない」となっている。
(※)「金融機関のプロパー融資」とは、『信用保証付融資』が信用保証協会の保証を付けた融資である一方、金融機関が信用保証協会の保証を付けず、独自に実行する融資のことを指します。

【調査対象】市内企業・市内に事業所を置く企業 1,000 社（回収数：550 社、回収率：55.0%）

【調査時期】平成 27 年 8 月 3 日～8 月 26 日（調査票回答及びヒアリング調査期間）

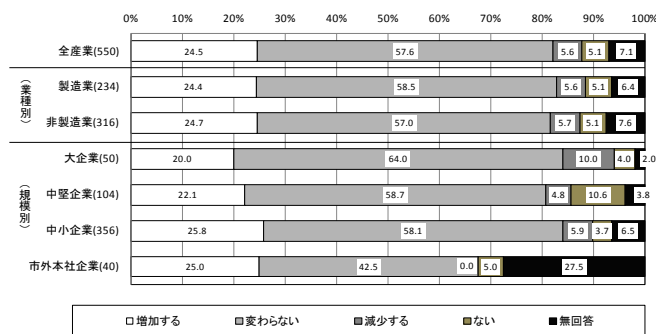
(注) 通常調査の結果概要（自社業況BSI等）については、平成 27 年 9 月 25 日発表の内容をご参照ください。

【特別調査の概要】

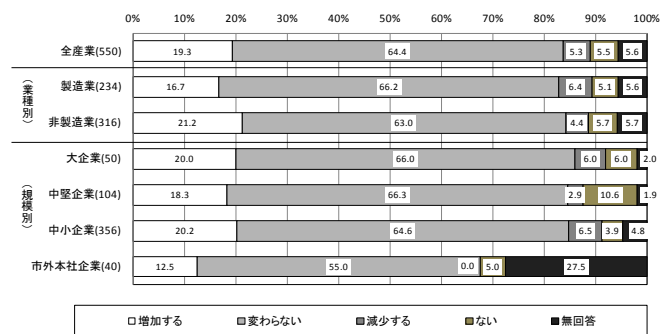
1. 資金需要の見通し

- 昨年度（平成 26 年度）と比較した今年度（平成 27 年度）の資金需要の見通しについては、資金需要全体で「変わらない」が 57.6%と最も高いものの、「増加する」と回答した企業は 24.5%と、「減少する」(5.6%) と回答した企業に比べて 18.9 ポイント上回っている。規模別にみると中小企業において「増加する」が 25.8%と中堅企業(22.1%)、大企業(20.0%)に比べて高くなっており、中小企業において資金需要が高い様子がうかがわれる。
- 目的別に比較すると、「変わらない」では「運転資金需要」(64.4%) が他の資金需要に比べて高く、唯一 6 割を超えている。運転資金需要は他の資金需要に比べて変動が小さいことが見て取れる。「増加する」では「設備資金需要」の 22.2%が高く、企業の設備投資に前向きな姿勢がうかがえる。「ない」では「研究開発資金需要」(33.1%) が高く、研究開発投資に消極的な姿勢が垣間見える。

資金需要全体

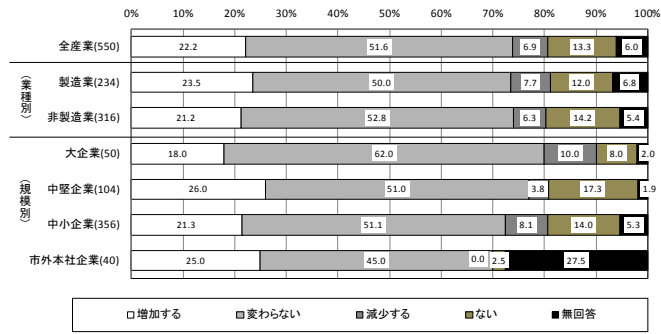


運転資金需要

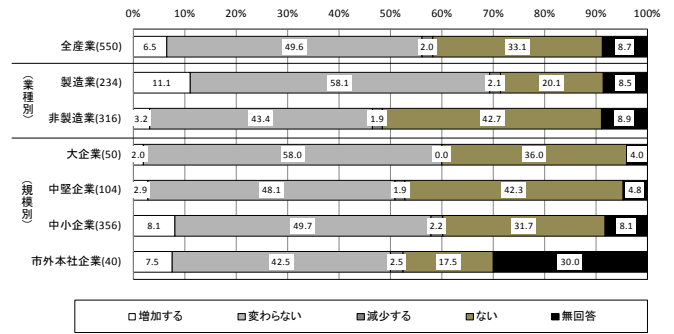


1. 資金需要の見通し (前頁続き)

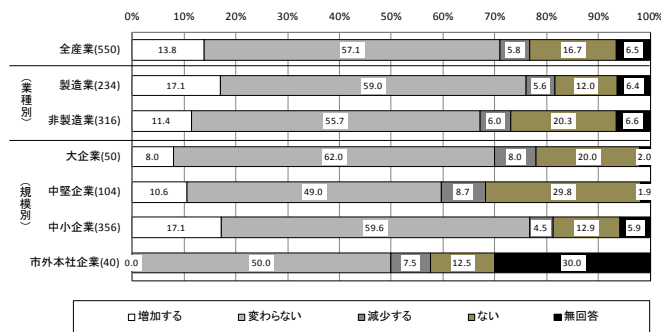
設備資金需要



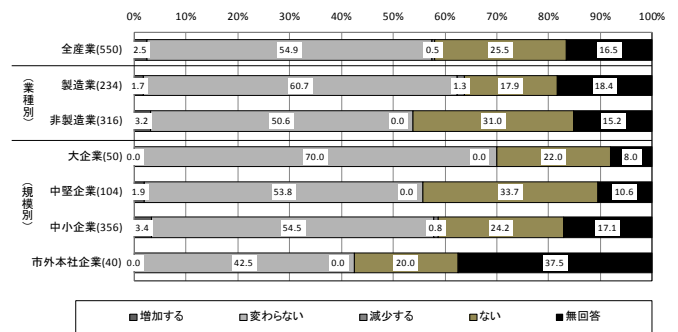
研究開発資金需要



返済資金需要



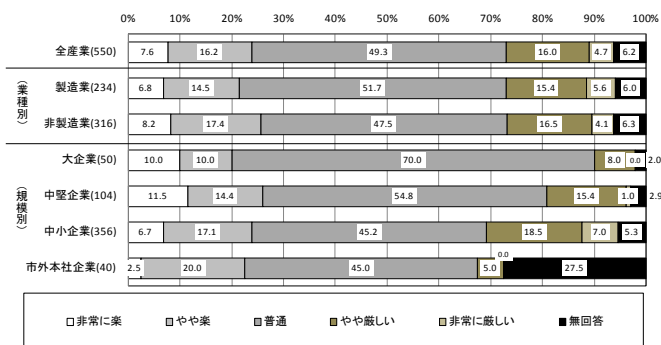
その他



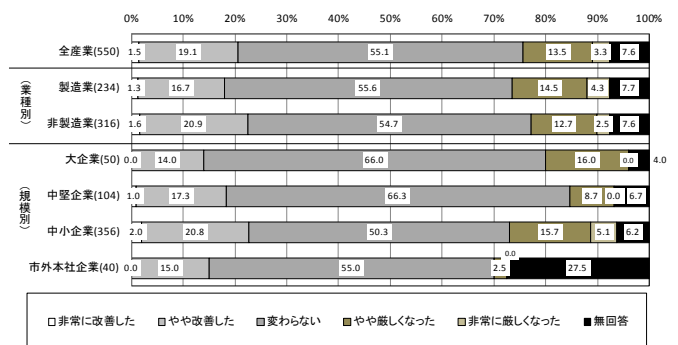
2. 資金繰りの状況

- 資金繰りに関する現在の状況についての判断は、「普通」が 49.3%で最も高い。「非常に楽」と「やや楽」をあわせた『楽』は 23.8%、「やや厳しい」と「非常に厳しい」をあわせた『厳しい』を 3.1ポイント上回っている。
- 昨年度からの状況の変化についての判断は、「変わらない」が 55.1%で最も高い。「非常に改善した」と「やや改善した」をあわせた『改善した』は 20.6%で、「やや厳しくなった」と「非常に厳しくなった」をあわせた『厳しくなった』の 16.8%に比べ 3.8ポイント高くなっている。

資金繰り (現在の状況)



資金繰り (昨年度からの状況の変化)



3. 資金調達手法の利用状況について

- 主な資金調達手法では、「金融機関のプロパー融資」が37.4%で最も高い。次いで「横浜市の制度融資」、「神奈川県での制度融資」、「信用保証付融資（横浜市・神奈川県での制度融資以外）」を合計した『信用保証付融資』が21.7%、「自己資本」（13.5%）、「政府系金融機関融資」（12.9%）となっている。
- 業種別では、製造業、非製造業ともに「金融機関のプロパー融資」がそれぞれ38.3%、36.7%で最も高い。製造業では『信用保証付融資』が23.3%、「政府系金融機関融資」が15.8%で、非製造業の20.3%、10.7%をそれぞれ上回っており、公的制度・機関の利用割合が高い。
- 規模別では、全ての規模で「金融機関のプロパー融資」が最も高く、大企業（40.7%）、中堅企業（37.4%）、中小企業（37.2%）と規模が大きいほど割合が高くなっている。一方、『信用保証付融資』は中小企業が27.0%と高く、また「政府系金融機関融資」の利用も中小企業が15.1%で最も高い。規模が小さいほど公的制度・機関の利用割合が高い様子が見られる。

主な資金調達手法（複数回答）

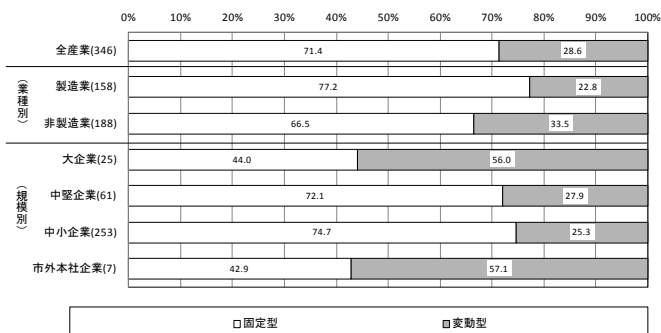
項目	全産業	業種別		規模別			
		製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業	市外本企業
回答件数	919	412	507	81	147	647	44
金融機関(銀行・信用金庫)のプロパー融資	37.4%	38.3%	36.7%	40.7%	37.4%	37.2%	34.1%
信用保証付融資	21.7%	23.3%	20.3%	1.2%	14.2%	27.0%	4.5%
横浜市の制度融資	8.6%	8.7%	8.5%	0.0%	5.4%	11.0%	0.0%
神奈川県での制度融資	6.0%	6.6%	5.5%	0.0%	3.4%	7.7%	0.0%
信用保証付融資(その他)	7.1%	8.0%	6.3%	1.2%	5.4%	8.3%	4.5%
政府系金融機関融資	12.9%	15.8%	10.7%	6.2%	7.5%	15.1%	11.4%
資本金借入金	0.4%	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
クラウドファンディング	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
社債の発行(私募債)	2.5%	1.9%	3.0%	2.5%	4.1%	2.3%	0.0%
社債の発行(公募債)	1.0%	1.0%	1.0%	7.4%	0.0%	0.0%	6.8%
株式(上場)	1.3%	0.7%	1.8%	9.9%	0.0%	0.2%	6.8%
株式(非上場)	0.7%	0.5%	0.8%	1.2%	0.7%	0.6%	0.0%
ベンチャーキャピタル	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ノンバンク	0.7%	0.0%	1.2%	0.0%	2.7%	0.3%	0.0%
自己資本	13.5%	12.1%	14.6%	18.5%	20.4%	10.8%	20.5%
親族・知人からの借入	1.6%	1.2%	2.0%	1.2%	0.0%	2.2%	0.0%
その他	6.3%	4.9%	7.5%	11.1%	12.9%	3.6%	15.9%

※無回答は除外して集計しています。

4. 直近の運転資金の借入の状況

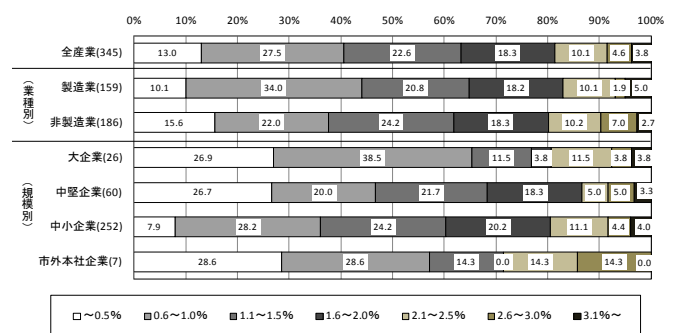
- 現在の借入金利の型については、「金利固定型」が71.4%と、「金利変動型」の28.6%に比べて非常に高い。規模別では大企業（44.0%）、中堅企業（72.1%）、中小企業（74.7%）と規模が小さいほど「金利固定型」の割合が高い。
- 現在の適用金利は、「0.6～1.0%」が27.5%と最も高く、次いで「1.1～1.5%」（22.6%）、「1.6～2.0%」（18.3%）となっている。規模別では、規模が小さいほど適用金利が高くなる傾向が見られる。

固定型・変動型別割合



※無回答は除外して集計しています。

現在の適用金利

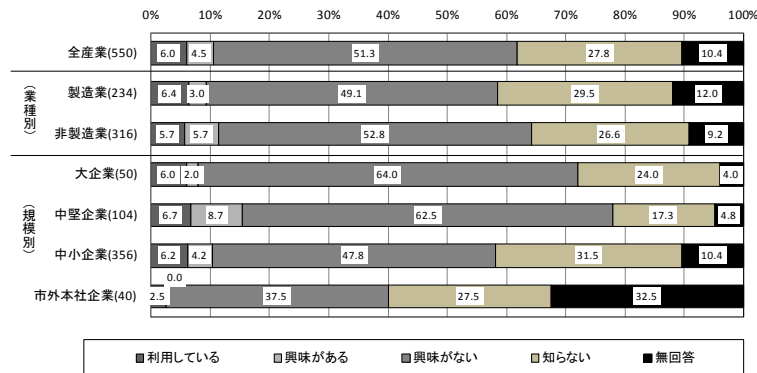


※無回答は除外して集計しています。

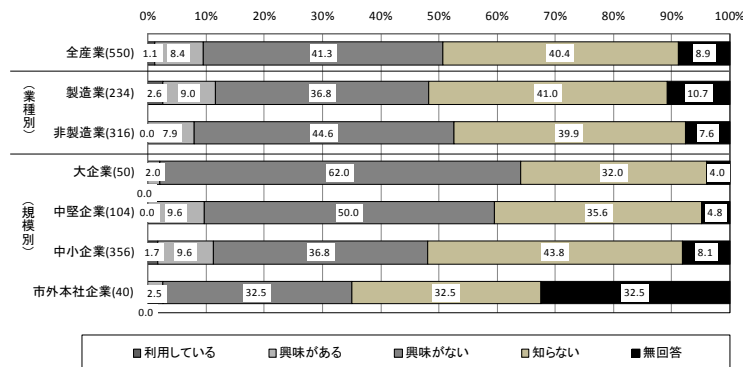
5. 社債の発行、資本性借入金、クラウドファンディングによる資金調達手法の利用状況について

- 社債の発行（私募債）は、「興味がない」が51.3%で最も高く、「知らない」（27.8%）をあわせて79.1%となっている。一方、「利用している」が6.0%ある。規模別では全ての規模で利用実績があり、「興味がある」について、中堅企業(8.7%)・中小企業(4.2%)は大企業(2.0%)に比べ高くなっている。
- 資本性借入金の利用状況は、「興味がない」が41.3%で最も高く、「知らない」（40.4%）をあわせて81.7%に達する。一方、「利用している」は1.1%となっている。規模別では「興味がある」が中堅企業(9.6%)・中小企業(9.6%)において、大企業(2.0%)より高く、中小企業では利用している企業がある。
- クラウドファンディング（購入型・融資型）では、「興味がない」が43.5%で最も高く、「知らない」（39.8%）をあわせて83.3%となっている。一方、「利用している」は0.4%にとどまる。規模別では「興味がある」が中堅企業(8.7%)・中小企業(7.6%)において大企業(2.0%)に比べ高く、中小企業では利用している企業がある。

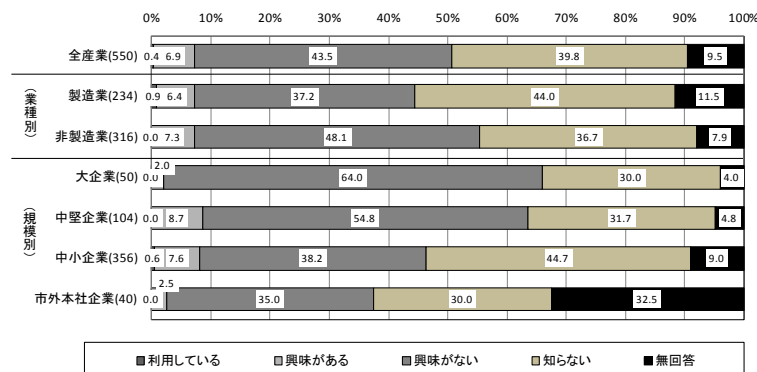
社債の発行（私募債）利用状況



資本性借入金利用状況



クラウドファンディング利用状況（購入型・融資型）



◎報告書掲載 URL <http://www.city.yokohama.lg.jp/keizai/happyou/keikyoureport.html> (掲載予定日：10月21日)

お問合せ先

経済局経済企画課長
経済局金融課長

佐々田 賢一 Tel 045-671-2565
伊藤 敏孝 Tel 045-671-2586

特別調査結果

—市内企業の資金調達手法について—

特別調査回収数 550 社 (回収率 : 55.0%)

	市内本社企業			市外本社企業	合 計
	大企業	中堅企業	中小企業		
製造業	15 (32)	16 (27)	188 (329)	15 (25)	234 (413)
非製造業	35 (59)	88 (142)	168 (336)	25 (50)	316 (587)
合 計	50 (91)	104 (169)	356 (665)	40 (75)	550 (1,000)

(注) () 内は調査対象企業数

1. 昨年度（平成 26 年度）と比較した今年度（平成 27 年度）の目的別資金需要の見通し

昨年度（平成 26 年度）と比較した今年度（平成 27 年度）の資金需要の見通しを資金需要全体で見ると、運転資金需要（図表 1 (a)）では、「変わらない」が 64.4%で最も高く、次いで「増加する」(19.3%)、「ない」(5.5%)、「減少する」(5.3%)となっている。（無回答を除く。以下同じ）。

運転資金需要の「変わらない」(64.4%)は他の資金需要に比べ高く、唯一6割を超えており、運転資金需要は他の資金需要に比べ変動が小さいことが見て取れる。

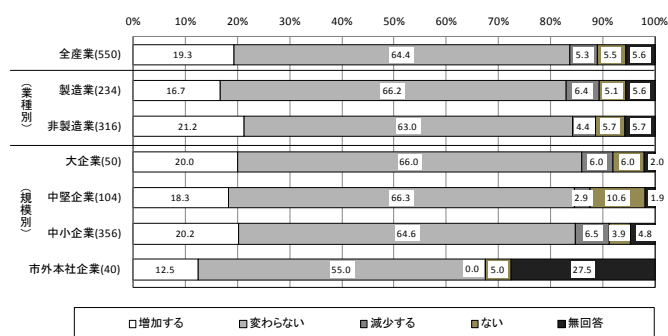
規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高く、次いで「増加する」となっている。中堅企業が大企業、中小企業に比べ「増加する」と「減少する」では低く、「ない」では高くなっている。

設備資金需要（図表 1 (b)）では、「変わらない」が 51.6%で最も高く、次いで「増加する」(22.2%)、「ない」(13.3%)となっている。

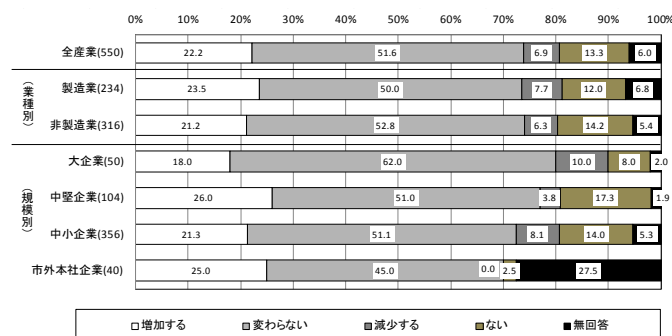
設備資金需要の「増加する」(22.2%)は他の資金需要に比べて高く、企業の設備投資に前向きな姿勢がうかがえる。

規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高く、次いで「増加する」となっている。3位には大企業では「減少する」(10.0%)がつづき、中堅企業、中小企業では「ない」がそれぞれ 17.3%、14.0%でつづいている。

図表 1 (a) 運転資金需要：業種別、規模別



図表 1 (b) 設備資金需要：業種別、規模別



研究開発資金需要（図表 1 (c)）では、「変わらない」が 49.6%で最も高く、次いで「ない」(33.1%)、「増加する」(6.5%)となっている。

研究開発資金需要の「ない」(33.1%)は他の資金需要に比べ高く、研究開発投資に消極的な姿勢が垣間見える。

業種別では、非製造業の「変わらない」は 43.4%で最も高いが、「ない」も 42.7%で拮抗しており、また、製造業の「ない」(20.1%)に比べ2倍強となっている。

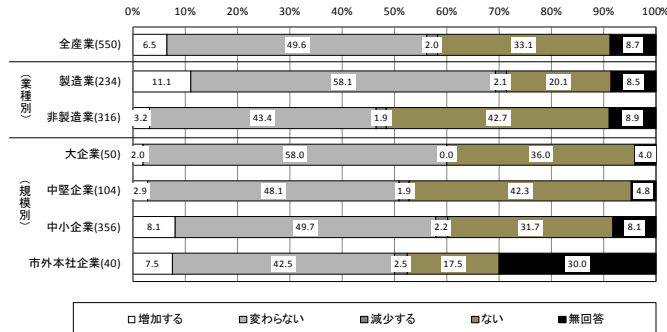
規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高い。「増加する」は規模が小さいほど高く、大企業(2.0%)、中堅企業(2.9%)に比べ中小企業では 8.1%に達する。

返済資金需要 (図表 1 (d)) では、「変わらない」が 57.1% で最も高く、次いで「ない」(16.7%)、「増加する」(13.8%) となっている。

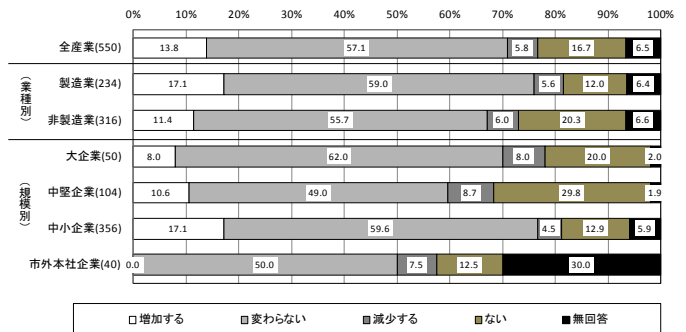
業種別では、製造業が非製造業に比べ「増加する」では高く、「減少する」、「ない」では低い。製造業の方が返済資金需要は強い様子が見える。

規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高い。「増加する」では中小企業 (17.1%) が大企業 (8.0%)、中堅企業 (10.6%) に比べ高く、返済資金需要が高い様子が見られる。「ない」では中堅企業が最も高い。

図表 1 (c) 研究開発資金需要：業種別、規模別



図表 1 (d) 返済資金需要：業種別、規模別



その他 (図表 1 (e)) では、「変わらない」が 54.9% で最も高く、次いで「ない」(25.5%)、「増加する」(2.5%) となっている。

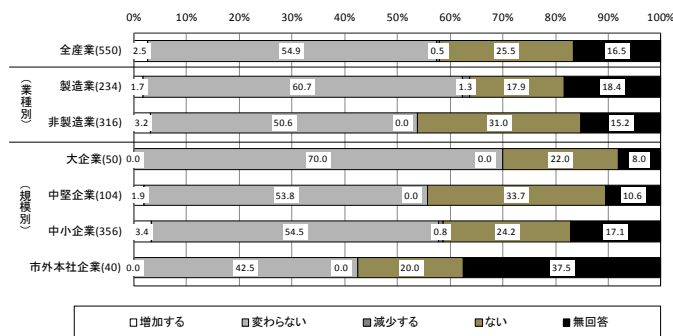
業種別に比較すると、製造業は非製造業に比べ「変わらない」が高く、「ない」は低くなっている。

規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高く、大企業では 70.0% に達し、中堅企業(53.8%)、中小企業(54.5%) に比べ高い。

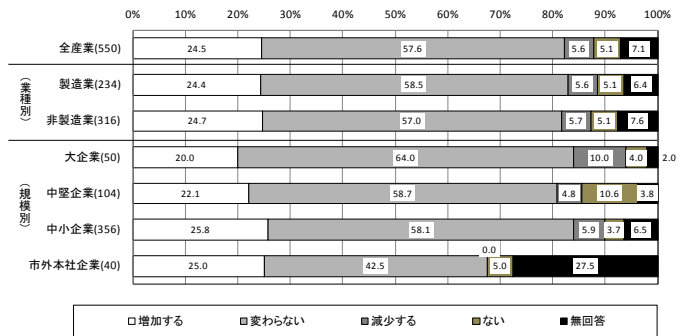
資金需要全体 (図表 1 (f)) では、「変わらない」が 57.6% で最も高く、次いで「増加する」(24.5%)、「減少する」(5.6%) となっている。

規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高く、規模が大きいほど高い。「増加する」では規模が小さいほど高く、小規模ほど資金需要が高い様子が見える。

図表 1 (e) その他：業種別、規模別



図表 1 (f) 資金需要全体：業種別、規模別



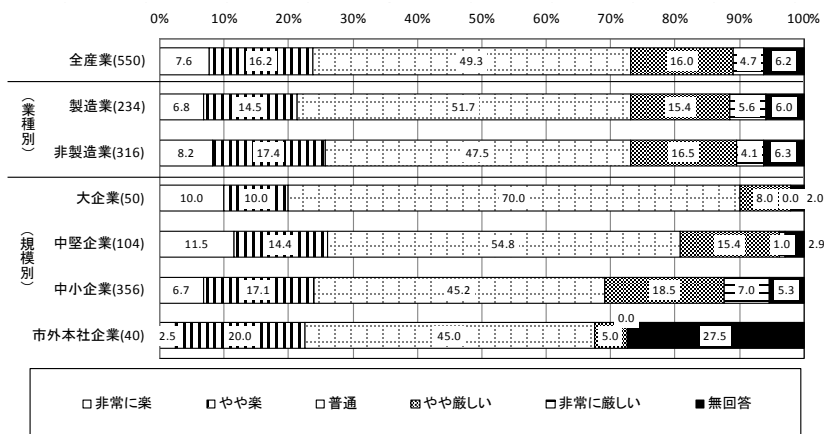
2. 資金繰り状況の判断（現在の状況・昨年度からの変化）

資金繰りに関する現在の状況についての判断（図表2（a））については、「普通」が49.3%で最も高く、次いで「やや楽」（16.2%）、「やや厳しい」（16.0%）となっている。「非常に楽」と「やや楽」をあわせた『楽』は23.8%、「やや厳しい」と「非常に厳しい」をあわせた『厳しい』は20.7%で、『楽』が『厳しい』を3.1ポイント上回っている。

業種別では、両業種とも「普通」が最も高い。製造業の『楽』は21.3%、『厳しい』は21.0%、非製造業では『楽』は25.6%、『厳しい』は20.6%で製造業、非製造業ともに『楽』が『厳しい』に比べ高くなっている。

規模別では、全ての規模で「普通」が最も高く、なかでも大企業では70.0%と7割に達している。一方、中小企業では45.2%と5割に達しない。大企業では『楽』が20.0%と『厳しい』の8.0%を上回っている。中堅企業でも『楽』は25.9%で『厳しい』の16.4%に比べ高い。一方、中小企業では『楽』は23.8%で『厳しい』の25.5%に比べ低くなっている。

図表2（a） 資金繰り（現在の状況）：業種別、規模別

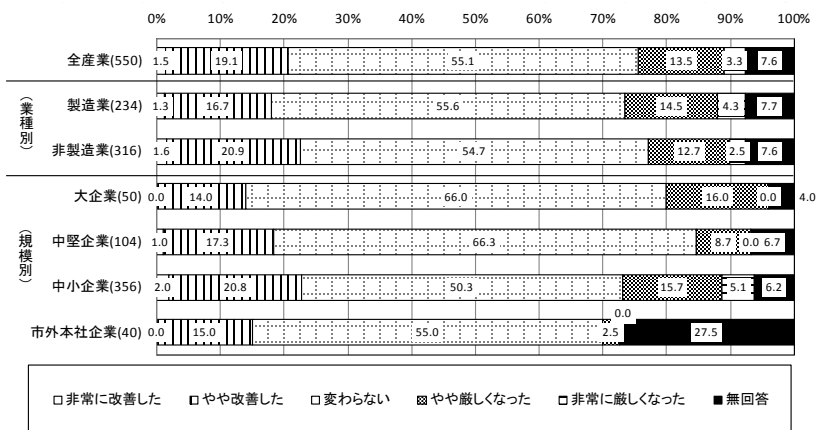


昨年度からの状況の変化についての判断（図表2（b））については、「変わらない」が55.1%で最も高く、次いで「やや改善した」（19.1%）、「やや厳しくなった」（13.5%）となっている。「非常に改善した」と「やや改善した」をあわせた『改善した』は20.6%で、「やや厳しくなった」と「非常に厳しくなった」をあわせた『厳しくなった』の16.8%に比べ3.8ポイント高くなっている。

業種別では、製造業、非製造業ともに「変わらない」がそれぞれ55.6%、54.7%で最も高い。製造業では『厳しくなった』（18.8%）が『改善した』（18.0%）と拮抗している。非製造業では『改善した』が22.5%で『厳しくなった』（15.2%）に比べ高く、また、製造業に比べても4.5ポイント高く、非製造業において資金繰りがより改善している様子が見える。

規模別では、全ての規模で「変わらない」が最も高い。大企業では『厳しくなった』（16.0%）は『改善した』（14.0%）に比べ高い。一方、中堅企業では『改善した』が18.3%で『厳しくなった』の8.7%に比べ9.6ポイント高い。中小企業の『改善した』（22.8%）と『厳しくなった』（20.8%）は、いずれも大企業、中堅企業に比べ高く、規模が小さいほど資金繰りの変動傾向が強い様子が見える。

図表2（b） 資金繰り（昨年度からの状況の変化）：業種別、規模別



3. 資金調達手法（現在・今後）

主な資金調達手法（現在）（資金調達手法における第一順位～第三順位）（図表3(a0)）についてみると、「金融機関のプロパー融資」が37.4%で最も高い。次いで「横浜市の制度融資」、「神奈川県の手当融資」、「信用保証付融資（横浜市・神奈川県の手当融資以外）」を合計した『信用保証付融資』が21.7%、「自己資本」（13.5%）、「政府系金融機関融資」（12.9%）となっている。

業種別にみると、製造業では「金融機関プロパー融資」が38.3%で最も高く、次いで『信用保証付融資』（23.3%）、「政府系金融機関融資」（15.8%）、非製造業では「金融機関プロパー融資」が36.7%で最も高く、次いで『信用保証付融資』（20.3%）となっている。

業種別に比較すると、製造業は『信用保証付融資』、「政府系金融機関融資」で非製造業を上回っており、公的制度・機関の利用割合が高い。

規模別にみると、大企業では「金融機関プロパー融資」が40.7%で最も高く、次いで「自己資本」（18.5%）、「株式（上場）」（9.9%）となっている。中堅企業では「金融機関プロパー融資」が37.4%で最も高く、次いで「自己資本」（20.4%）、『信用保証付融資』（14.2%）となっている。中小企業では「金融機関プロパー融資」が37.2%で最も高く、次いで『信用保証付融資』（27.0%）、「政府系金融機関融資」（15.1%）となっている。

規模別に比較すると、中小企業が『信用保証付融資』と「政府系金融機関融資」で大企業、中堅企業に比べ高く、規模が小さいほど公的制度・機関の利用割合が高い様子がうかがわれる。

図表3(a0) 主な資金調達手法（現在）（資金調達手法における第一順位～第三順位）：業種別、規模別

項目	全産業	業種別		規模別			
		製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業	市外本社企業
回答件数	919	412	507	81	147	647	44
金融機関(銀行・信用金庫)のプロパー融資	37.4%	38.3%	36.7%	40.7%	37.4%	37.2%	34.1%
信用保証付融資	21.7%	23.3%	20.3%	1.2%	14.2%	27.0%	4.5%
横浜市の制度融資	8.6%	8.7%	8.5%	0.0%	5.4%	11.0%	0.0%
神奈川県の手当融資	6.0%	6.6%	5.5%	0.0%	3.4%	7.7%	0.0%
信用保証付融資(その他)	7.1%	8.0%	6.3%	1.2%	5.4%	8.3%	4.5%
政府系金融機関融資	12.9%	15.8%	10.7%	6.2%	7.5%	15.1%	11.4%
資本金借入金	0.4%	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
クラウドファンディング	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
社債の発行(私募債)	2.5%	1.9%	3.0%	2.5%	4.1%	2.3%	0.0%
社債の発行(公募債)	1.0%	1.0%	1.0%	7.4%	0.0%	0.0%	6.8%
株式(上場)	1.3%	0.7%	1.8%	9.9%	0.0%	0.2%	6.8%
株式(非上場)	0.7%	0.5%	0.8%	1.2%	0.7%	0.6%	0.0%
ベンチャーキャピタル	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ノンバンク	0.7%	0.0%	1.2%	0.0%	2.7%	0.3%	0.0%
自己資本	13.5%	12.1%	14.6%	18.5%	20.4%	10.8%	20.5%
親族・知人からの借入	1.6%	1.2%	2.0%	1.2%	0.0%	2.2%	0.0%
その他	6.3%	4.9%	7.5%	11.1%	12.9%	3.6%	15.9%

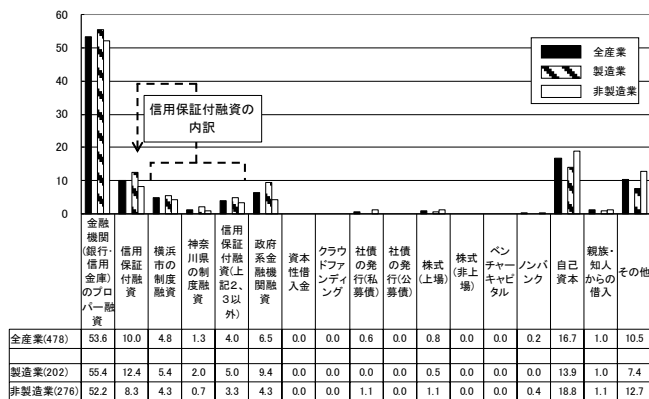
※無回答は除外して集計しています。

順位別にみると、第一順位（図表3(a1)）では、「金融機関のプロパー融資」が53.6%で最も高く、次いで「自己資本」（16.7%）、「その他」（10.5%）となっている。

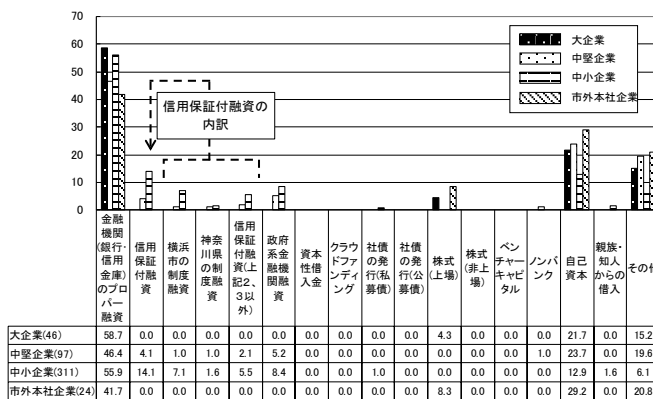
業種別では製造業が『信用保証付融資』と「政府系金融機関融資」の利用割合が非製造業に比べ高い。

規模別では、全ての規模で「金融機関プロパー融資」が高く、規模が小さいほど公的制度、機関の利用割合が高い。

図表3 (a1) 資金調達手法 (現在・第一順位): 業種別、規模別



(注) 無回答は除外して集計しています。



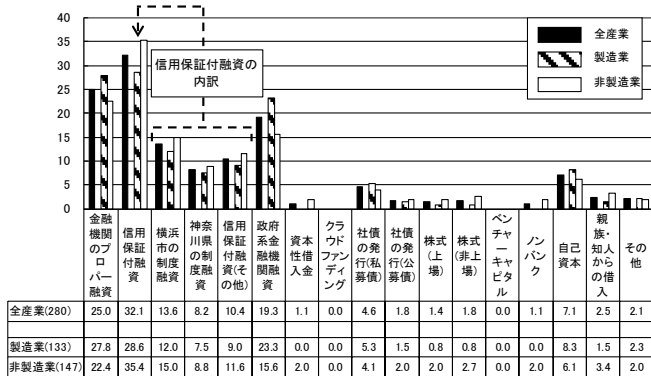
(注) 無回答は除外して集計しています。

第二順位(図表3(a2))では、『信用保証付融資』が32.2%で最も高く、次いで「金融機関のプロパー融資」(25.0%)、「政府系金融機関融資」(19.3%)となっている。

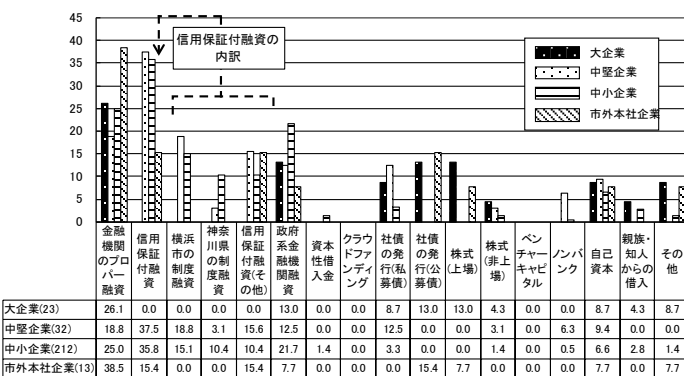
業種別では、両業種とも『信用保証付融資』が最も高い。『信用保証付融資』では非製造業が製造業に比べ高く、「政府系金融機関融資」では製造業が非製造業に比べて高くなっている。

規模別では、大企業で「社債の発行(公募債)」、「株式(上場)」が高く、市場からの資金調達が行われている。

図表3 (a2) 資金調達手法 (現在・第二順位): 業種別、規模別



(注) 無回答は除外して集計しています。



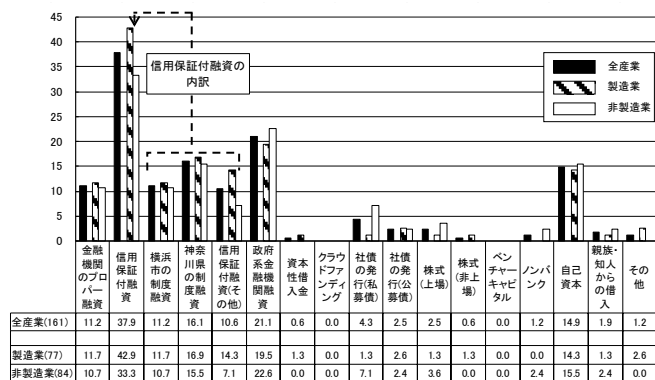
(注) 無回答は除外して集計しています。

第三順位(図表3(a3))では、『信用保証付融資』が37.9%で最も高く、次いで「政府系金融機関融資」(21.1%)、「自己資本」(14.9%)となっている。

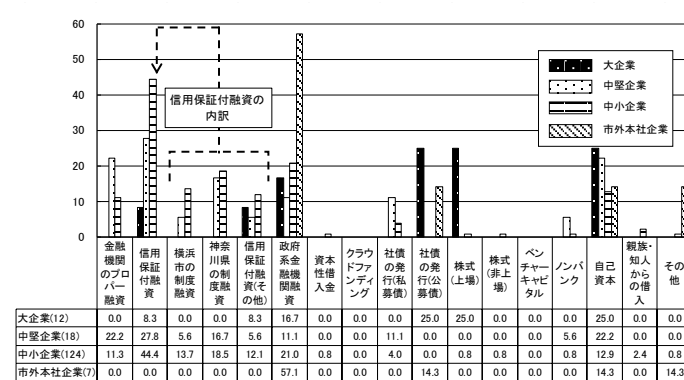
業種別では、製造業の『信用保証付融資』(42.9%)は非製造業(33.3%)を上回っている。一方、「政府系金融機関融資」は非製造業が高くなっている。

規模別では、大企業は「社債の発行(公募債)」、「株式(上場)」、「自己資本」がともに25.0%で最も高い。一方、規模が小さいほど公的制度、機関の利用割合が高い。

図表3 (a3) 資金調達手法 (現在・第三順位): 業種別、規模別



(注) 無回答は除外して集計しています。



(注) 無回答は除外して集計しています。

[主な資金調達手法(今後)](資金調達手法における第一順位～第三順位)(図表3(b0))についてみると、「金融機関のプロパー融資」が36.9%で最も高い。次いで『信用保証付融資』(22.3%)、「政府系金融機関融資」(13.4%)となっている。

業種別にみると、製造業では「金融機関プロパー融資」が37.4%で最も高く、次いで『信用保証付融資』(25.4%)、「政府系金融機関融資」(15.9%)、非製造業では「金融機関プロパー融資」が36.4%で最も高く、次いで『信用保証付融資』(19.6%)となっている。

業種別に比較すると、製造業は『信用保証付融資』、「政府系金融機関融資」で非製造業を上回っており、公的・制度・機関の利用の意向が非製造業に比べ高い。

規模別にみると、大企業では「金融機関プロパー融資」が41.3%で最も高く、次いで「自己資本」(17.5%)、「株式(上場)」(11.3%)となっている。中堅企業では「金融機関プロパー融資」が38.2%で最も高く、次いで「自己資本」(21.5%)、『信用保証付融資』(11.9%)となっている。中小企業では「金融機関プロパー融資」が36.2%で最も高く、次いで『信用保証付融資』(28.5%)、「政府系金融機関融資」(15.9%)となっている。

規模別に比較すると、中小企業が『信用保証付融資』と「政府系金融機関融資」で大企業、中堅企業に比べ高く、規模が小さいほど公的・制度・機関の利用の意向が高い様子が見られる。

図表3(b0) 主な資金調達手法(今後)(資金調達手法における第一順位～第三順位):業種別、規模別

項目	全産業	業種別		規模別			
		製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業	市外本社企業
回答件数	911	414	497	80	144	643	44
金融機関(銀行・信用金庫)のプロパー融資	36.9%	37.4%	36.4%	41.3%	38.2%	36.2%	34.1%
信用保証付融資	22.3%	25.4%	19.6%	1.3%	11.9%	28.5%	4.5%
横浜市の制度融資	8.8%	9.7%	8.0%	0.0%	3.5%	11.7%	0.0%
神奈川県内の制度融資	6.5%	7.5%	5.6%	0.0%	2.8%	8.6%	0.0%
信用保証付融資(その他)	7.0%	8.2%	6.0%	1.3%	5.6%	8.2%	4.5%
政府系金融機関融資	13.4%	15.9%	11.3%	5.0%	7.6%	15.9%	11.4%
資本金借入金	0.5%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
クラウドファンディング	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
社債の発行(私募債)	1.8%	1.4%	2.0%	2.5%	2.8%	1.6%	0.0%
社債の発行(公募債)	1.0%	1.0%	1.0%	7.5%	0.0%	0.0%	6.8%
株式(上場)	1.4%	0.7%	2.0%	11.3%	0.0%	0.2%	6.8%
株式(非上場)	0.7%	0.5%	0.8%	1.3%	0.7%	0.6%	0.0%
ベンチャーキャピタル	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ノンバンク	1.1%	0.0%	2.0%	0.0%	4.2%	0.6%	0.0%
自己資本	13.0%	11.1%	14.5%	17.5%	21.5%	10.0%	20.5%
親族・知人からの借入	1.4%	1.0%	1.8%	1.3%	0.0%	1.9%	0.0%
その他	6.5%	5.6%	7.2%	11.3%	13.2%	3.7%	15.9%

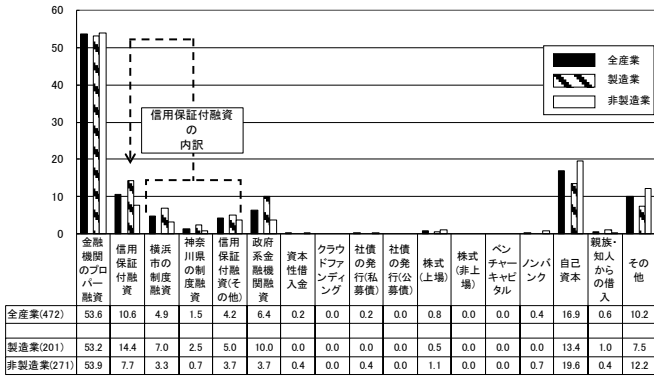
※無回答は除外して集計しています。

順位別にみると、第一順位(図表3(b1))では、「金融機関のプロパー融資」が53.6%で最も高く、次いで「自己資本」(16.9%)「その他」(10.2%)となっている。

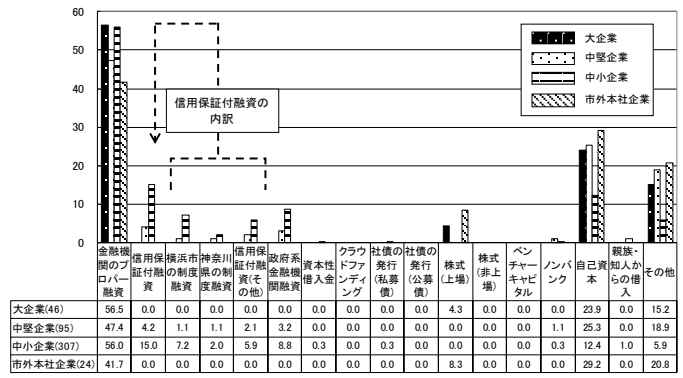
業種別では、製造業が『信用保証付融資』と「政府系金融機関融資」で非製造業に比べ高くなっている。

規模別では、全ての規模で「金融機関のプロパー融資」が最も高い。規模が小さいほど『信用保証付融資』並びに「政府系金融機関融資」の割合が高くなっている。

図表3(b1) 資金調達手法(今後・第一順位):業種別、規模別



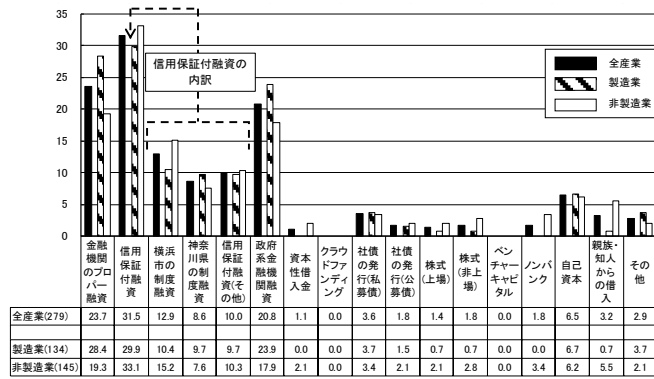
(注) 無回答は除外して集計しています。



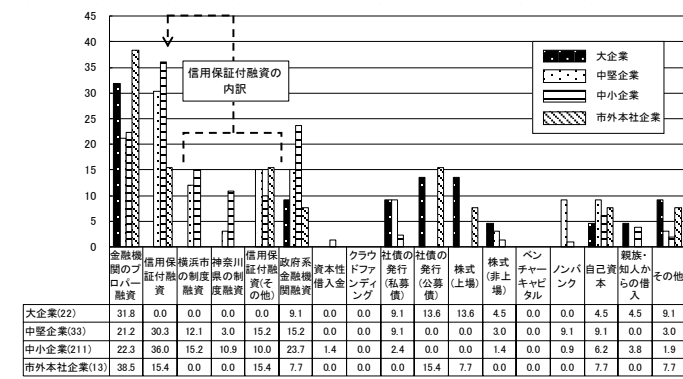
(注) 無回答は除外して集計しています。

第二順位(図表3(b2))では、『信用保証付融資』が31.5%で最も高く、次いで「金融機関のプロパー融資」(23.7%)、「政府系金融機関融資」(20.8%)となっている。
業種別では、両業種ともに『信用保証付融資』が最も高い。
規模別では、規模が小さいほど『信用保証付融資』、「政府系金融機関融資」の割合が高くなっている。

図表3(b2) 資金調達手法(今後・第二順位):業種別、規模別



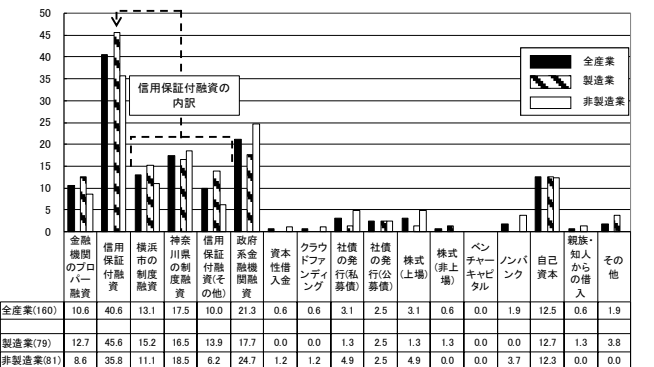
(注) 無回答は除外して集計しています。



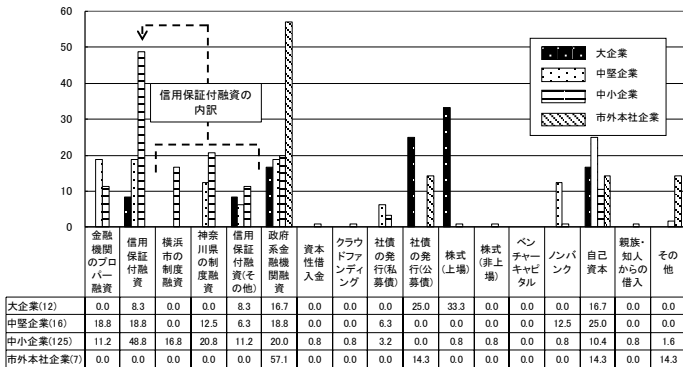
(注) 無回答は除外して集計しています。

第三順位(図表3(b3))では、『信用保証付融資』が40.6%で最も高く、次いで「政府系金融機関融資」(21.3%)、「自己資本」(12.5%)となっている。一方、「金融機関プロパー融資」は10.6%にとどまる。
業種別では、両業種ともに『信用保証付融資』が最も高く、製造業(45.8%)が非製造業(35.8%)に比べ高い。一方「政府系金融機関融資」は非製造業が高い。
規模別では大企業では株式や公募債等市場から直接、資金調達する意向が強いことがうかがえ、中堅企業では自己資本で、中小企業では公的・機関を通じての資金調達を志向している姿がうかがえる。

図表3(b3) 資金調達手法(今後・第三順位):業種別、規模別



(注) 無回答は除外して集計しています。



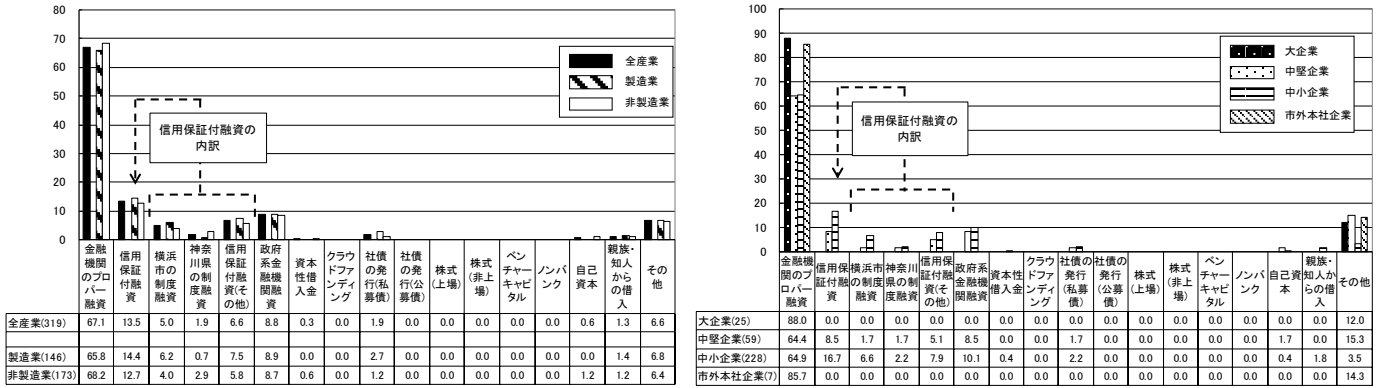
(注) 無回答は除外して集計しています。

4. 直近の運転資金の借入の状況

直近の運転資金の借入の状況についてみると、借入の手段（図表4（ア））は、「金融機関（銀行・信用金庫）のプロパー融資」が67.1%と非常に高い。次いで『信用保証付融資』（13.5%）、「政府系金融機関融資」（8.8%）となっている。

規模別にみると、大企業では「金融機関のプロパー融資」が88.0%と非常に高く、中堅・中小企業に比べても高く、大企業の信用を背景に市中金融機関からの資金調達を行っている様子が見られる。『信用保証付融資』と「政府系金融機関融資」は中小企業が最も高く、規模が小さいほど公的制度融資・機関が利用されている様子が認められる。

図表4（ア） 借入手段：業種別、規模別



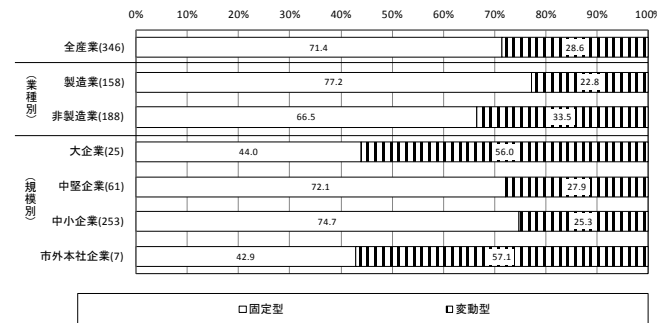
(注) 無回答は除外して集計しています。

(注) 無回答は除外して集計しています。

借入金利（図表4（イ））は、「固定型」が71.4%と高く、「変動型」は28.6%となっている。

規模別では、大企業で「変動型」が56.0%と「固定型」（44.0%）に比べて高い。「変動型」が「固定型」に比べて高いのは大企業のみで、中堅・中小企業では「固定型」が「変動型」に比べ高い。

図表4（イ） 借入金利：業種別、規模別

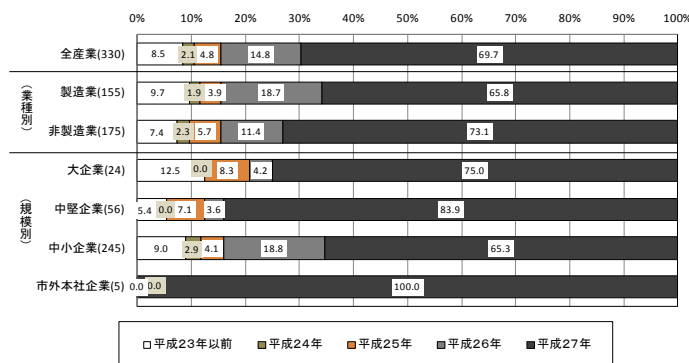


(注) 無回答は除外して集計しています。

借入を行った時期（図表4（ウ））は、「平成27年」が69.7%と7割に達し、最も高い。次いで「平成26年」（14.8%）、「平成25年」（4.8%）となっている。

規模別では、中堅企業で「平成27年」が83.9%に達し、大企業（75.0%）、中小企業（65.3%）に比べ集中度が高くなっている。

図表4（ウ） 借入時期：業種別、規模別

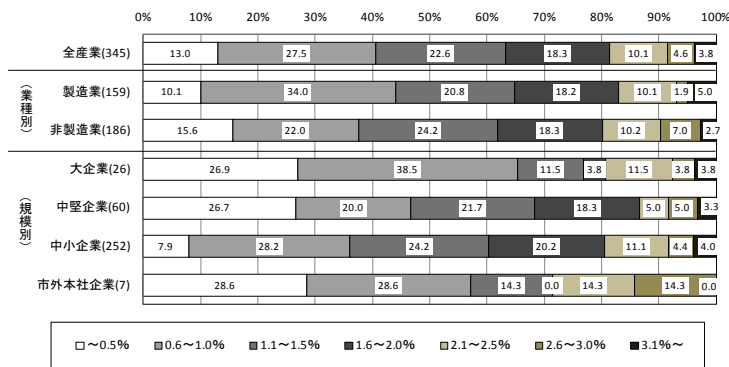


(注) 無回答は除外して集計しています。

現在の適用金利（図表4（エ）（a））は、「0.6～1.0%」が27.5%で最も高く、次いで「1.1～1.5%」（22.6%）、
「1.6～2.0%」（18.3%）となっている。

規模別では、「～0.5%」で大企業が26.9%、中堅企業も26.7%に達するが、中小企業は7.9%にとどまっている。
また、『～1.0%』でも大企業（65.4%）、中堅企業（46.7%）、中小企業（36.1%）となっており、規模が小さいほど低い適用金利での借入が行いにくい状況にあることが推察される。

図表4（エ）（a） 現在の適用金利：業種別、規模別

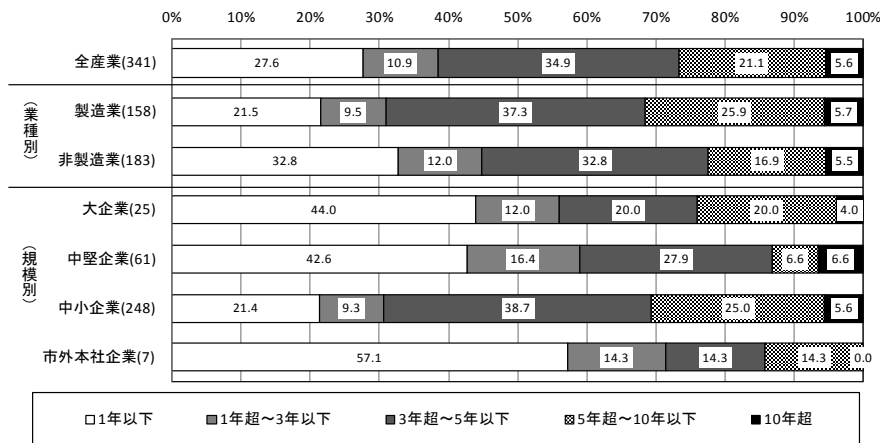


（注）無回答は除外して集計しています。

借入期間（図表4（エ）（b））では、「3年超～5年以下」が34.9%で最も高く、次いで「1年以下」（27.6%）、
「5年超～10年以下」（21.1%）となっている。

規模別では、「1年以下」で大企業（44.0%）、中堅企業（42.6%）、中小企業（21.4%）と規模が小さいほど割合が低く、一方、『3年超～』では大企業（44.0%）、中堅企業（41.1%）、中小企業（69.3%）と中小企業で借入期間が長い様子がうかがえる。

図表4（エ）（b） 借入期間：業種別、規模別



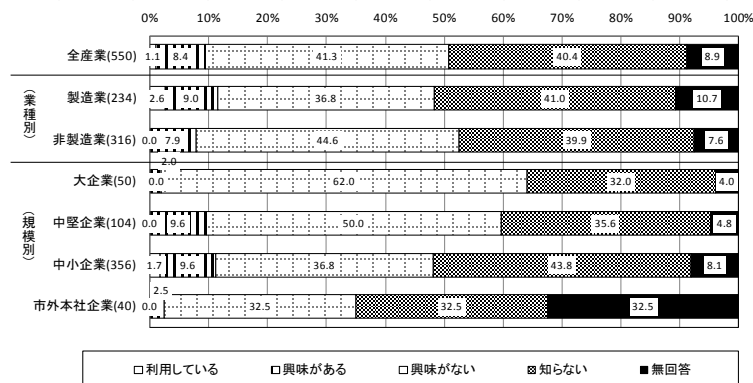
（注）無回答は除外して集計しています。

5. 資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行による資金調達手法の利用状況について

資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行による資金調達手法の利用状況についてみると、資本性借入金（図表5(a)）では、「興味がない」が41.3%で最も高く、次いで「知らない」(40.4%)となっており、あわせて81.7%を占める。「利用している」は1.1%にとどまる。

規模別では、規模が大きいほど「興味がない」の割合が高く、規模が小さいほど「知らない」の割合が高くなっている。なお、中小企業では利用している企業がある。

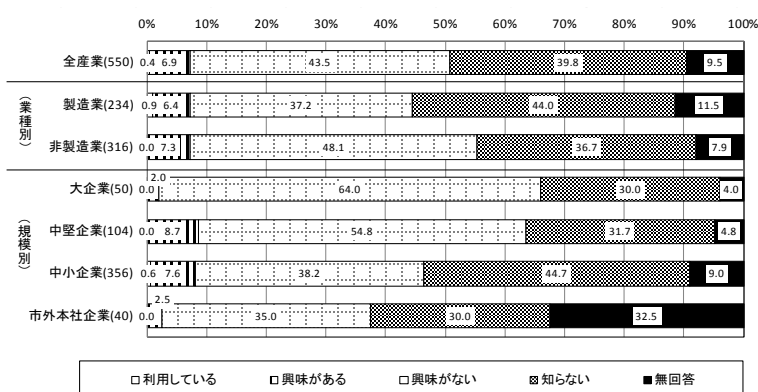
図表5(a) 資本性借入金：業種別、規模別



クラウドファンディング（図表5(b)）は、「興味がない」が43.5%で最も高く、次いで「知らない」(39.8%)となっている。

規模別では、規模が大きいほど「興味がない」の割合が高く、規模が小さいほど「知らない」の割合が高くなっている。なお、中小企業では利用している企業がある。

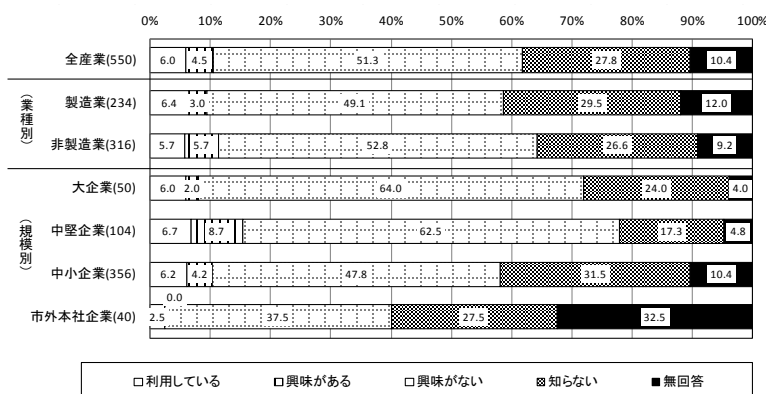
図表5(b) クラウドファンディング：業種別、規模別



社債の発行（私募債）（図表5(c)）は、「興味がない」が51.3%で最も高く、次いで「知らない」(27.8%)となっている。また、「利用している」は6.0%で、資本性借入金(1.1%)、クラウドファンディング(0.4%)に比べ高い

規模別では、規模が大きいほど「興味がない」の割合が高い。

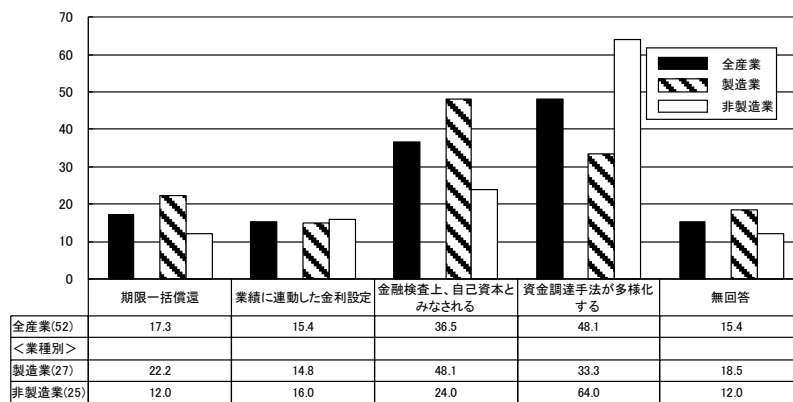
図表5(c) 社債の発行（私募債）：業種別、規模別



6. 資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行（私募債）のメリット

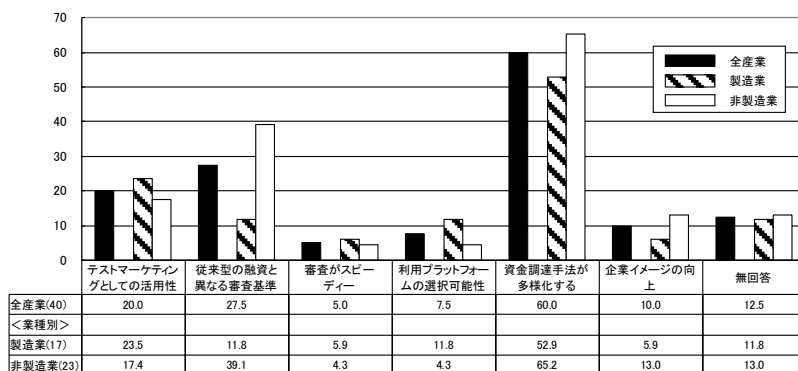
資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行による資金調達手法について、「利用している」または「興味がある」と回答した企業がメリットを感じている点についてみると、資本性借入金（図表 6（a）複数回答）は、「資金調達手法が多様化する」が48.1%で最も高く、次いで「金融検査上、自己資本とみなされる」（36.5%）、「期限一括償還」（17.3%）となっている。

図表 6（a） 資本性借入金のメリット：業種別（複数回答）



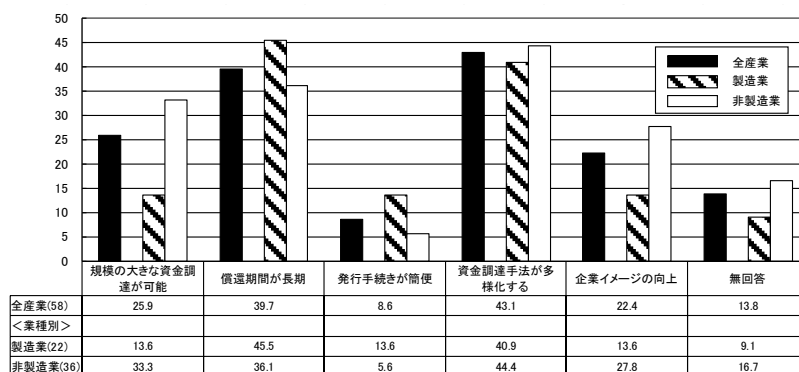
クラウドファンディング（図表 6（b）複数回答）は、「資金調達手法が多様化する」が60.0%で最も高く、次いで「従来型の融資と異なる審査基準」（27.5%）、「テストマーケティングとしての活用性」（20.0%）となっている。

図表 6（b） クラウドファンディングのメリット：業種別（複数回答）



社債の発行（私募債）（図表 6（c）複数回答）は、「資金調達手法が多様化する」が43.1%で最も高く、次いで「償還期間が長期」（39.7%）、「規模の大きな資金調達が可能」（25.9%）となっている。

図表 6（c） 社債の発行（私募債）のメリット：業種別（複数回答）

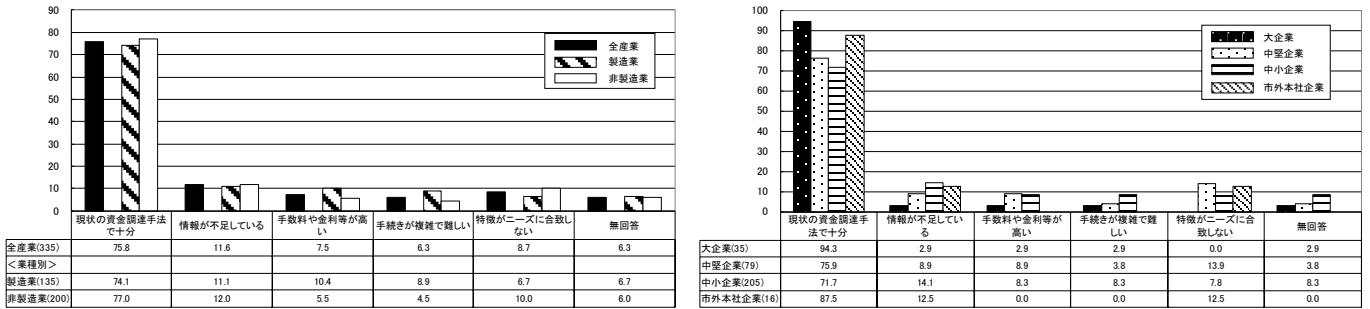


7. 資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行（私募債）を利用しない理由

資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行（私募債）を利用しない理由（図表7複数回答）についてみると、「現状の資金調達手法で十分」が75.8%で最も高く、次いで「情報が不足している」（11.6%）、「特徴がニーズに合致しない」（8.7%）となっている。

規模別では、「現状の資金調達手法で十分」が大企業（94.3%）、中堅企業（75.9%）、中小企業（71.7%）と規模が大きいほど現状の資金調達手法に対する満足度が高い様子がうかがわれる。一方、「情報が不足している」と「手続きが複雑で難しい」では中小企業がそれぞれ14.1%、8.3%と高く、新たな借入手法の情報が不足している様子や対応面で課題を抱えている様子が垣間見える。

図表7 資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行（私募債）を利用しない理由：業種別、規模別（複数回答）

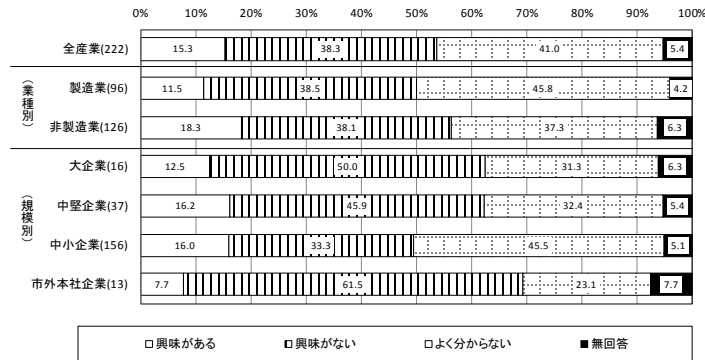


8. 資本性借入金、クラウドファンディング、社債の発行（私募債）を知らない企業の興味の有無

資本性借入金に対する興味の有無（図表8（a））については、「よく分らない」が41.0%で最も高く、次いで「興味がない」（38.3%）で、「興味がある」は15.3%にとどまる。

規模別では、大企業、中堅企業では「興味がない」がそれぞれ50.0%、45.9%で最も高いが、中小企業では「よく分らない」が45.5%で最も高くなっている。規模が大きいほど「興味がない」の割合が高く、規模が小さいほど「よく分らない」の割合が高くなっており、規模の違いによる情報収集力に差異があることが推測される。

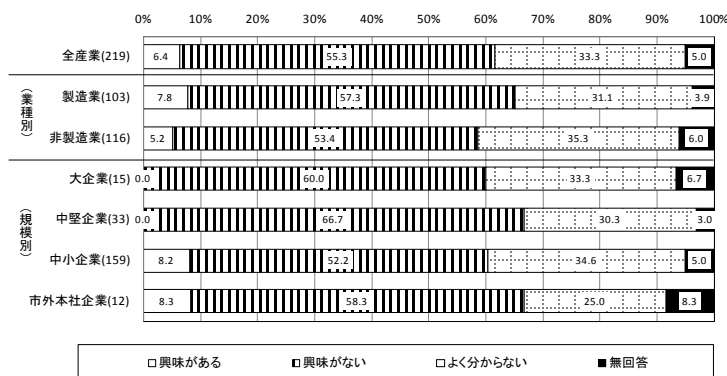
図表8（a） 資本性借入金に対する興味の有無：業種別、規模別



クラウドファンディングに対する興味の有無（図表8（b））については、「興味がない」が55.3%で最も高く、次いで「よく分らない」（33.3%）となっている。「興味がある」は6.4%にとどまる。

規模別では、全ての規模で「興味がない」が最も高い。「興味がある」の回答は大企業と中堅企業ではないが、中小企業では8.2%あり、クラウドファンディングに関しては中小企業の関心が他の規模に比べて高い様子が見られる。

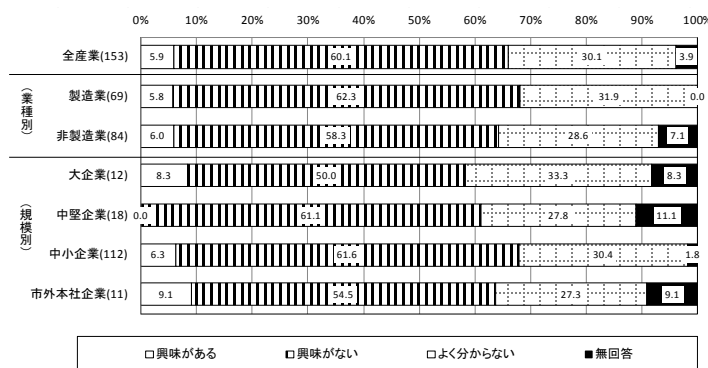
図表8（b） クラウドファンディングに対する興味の有無：業種別、規模別



社債の発行（私募債）に対する興味の有無（図表8（c））については、「興味がない」が60.1%で最も高く、次いで「よく分らない」（30.1%）となっている。「興味がある」は5.9%にとどまっている。

規模別では、全ての規模で「興味がない」が最も高い。次いで「よく分らない」となっている。

図表8（c） 社債の発行（私募債）に対する興味の有無：業種別、規模別

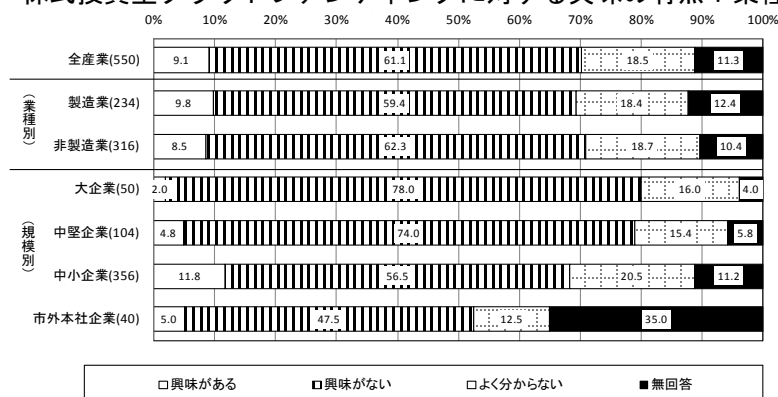


9. 株式投資型クラウドファンディングに対する興味の有無

株式投資型クラウドファンディングに対する興味の有無（図表9）については、「興味がない」が61.1%で最も高く、次いで「よく分らない」（18.5%）となっている。「興味がある」は9.1%にとどまる。

規模別では、全ての規模で「興味がない」が最も高く、規模が大きいほど高い。また、規模が小さいほど「興味がある」の割合が高くなっているが、同時に「よく分らない」の割合も高くなっており、中小企業では、興味があるものの情報が十分に得られていない様子が推察される。

図表9 株式投資型クラウドファンディングに対する興味の有無：業種別、規模別



第94回 横浜市景況・経営動向調査票 特別調査

—市内企業の資金調達手法について—

提出先：横浜市経済局

- 1 貴社における昨年度（平成26年度）と比較した今年度（平成27年度）の資金需要の見通しに関して、(a)～(e) 目的別と、(f)資金需要全体について、該当する番号**1つ**に○をつけてください。

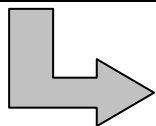
(a) 運転資金需要	1 増加する	2 変わらない	3 減少する	4 ない
(b) 設備資金需要	1 増加する	2 変わらない	3 減少する	4 ない
(c) 研究開発資金需要	1 増加する	2 変わらない	3 減少する	4 ない
(d) 返済資金需要	1 増加する	2 変わらない	3 減少する	4 ない
(e) その他	1 増加する	2 変わらない	3 減少する	4 ない
(f) 資金需要全体	1 増加する	2 変わらない	3 減少する	4 ない

- 2 貴社における今年度の資金繰りの状況をどのように判断していますか。(a)現在の状況と、(b)昨年度からの状況の変化について、該当する番号**1つ**に○をつけてください。

(a) 現在の状況	1 非常に楽	2 やや楽	3 普通	4 やや厳しい	5 非常に厳しい
(b) 昨年度からの状況の変化	1 非常に改善した	2 やや改善した	3 変わらない	4 やや厳しくなった	5 非常に厳しくなった

- 3 貴社における資金調達手法に関して、(a)現在と、(b)今後について、下表の選択肢の中から該当する番号を、利用の割合が高いものから**1つずつ**順に回答欄に記入してください。

1 金融機関(銀行・信用金庫)のプロパー融資	2 横浜市の制度融資	3 神奈川県内の制度融資
4 信用保証付融資(上記2、3以外)	5 政府系金融機関融資	6 資本金借入金
7 クラウドファンディング	8 社債の発行(私募債)	9 社債の発行(公募債)
10 株式(上場)	11 株式(非上場)	12 ベンチャーキャピタル
13 ノンバンク	14 自己資本	15 親族・知人からの借入
16 その他(具体的に)		



(a) 現在	第1順位		第2順位		第3順位	
(b) 今後	第1順位		第2順位		第3順位	

- 4 直近の運転資金の借入の状況についてお伺いします。現在借入がない場合は→質問5にお進みください。

(ア) 借入手段はどれですか。質問3の選択肢より、番号**1つ**を回答欄に記入してください。

(イ) 借入金利は、固定型ですか、変動型ですか。該当する番号**1つ**に○をつけてください。

1 固定型	2 変動型
-------	-------

(ウ) 借入を行った時期はいつですか。平成 年 月

(エ) 上記で○を付けた借入の(a)現在の適用金利は何%ですか。また、(b)借入期間は何年ですか。

それぞれについて、該当する番号**1つ**に○をつけてください。(金利は小数点第二位以下四捨五入)

(a) 現在の適用金利	1 ~0.5%	2 0.6~1.0%	3 1.1~1.5%	4 1.6~2.0%	5 2.1~2.5%
	6 2.6~3.0%	7 3.1~3.5%	8 3.6~4.0%	9 4.1~5.0%	10 5.1~
(b) 借入期間	1 1年以下	2 1年超~3年以下	3 3年超~5年以下	4 5年超~10年以下	5 10年超

5 本市では、豊かな市民生活を支える横浜経済の持続的発展を目指し、平成26年3月に「成長分野育成ビジョン」を策定しました。このビジョンでは、「チャレンジする企業の資金調達支援戦略」として、多様な資金調達の推進を掲げており、現在3つの取組を行っております。それぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

(a)資本性借入金	1 利用している	2 興味がある	3 興味がない	4 知らない
(b)クラウドファンディング (購入型) (融資型)	1 利用している	2 興味がある	3 興味がない	4 知らない
(c)社債の発行(私募債)	1 利用している	2 興味がある	3 興味がない	4 知らない

質問6-a~c、9にご回答ください

質問7、9にご回答ください

質問6-a~c、7、9にご回答ください

質問8-a~c、9にご回答ください

6-a 5-(a)資本性借入金について、「1 利用している」または「2 興味がある」と回答した方にお伺いします。資本性借入金のどの点にメリットを感じられましたか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 期限一括償還 | 2 業績に連動した金利設定 |
| 3 金融検査上、自己資本とみなされる | 4 資金調達手法が多様化する |

6-b 5-(b)クラウドファンディングについて、「1 利用している」または「2 興味がある」と回答した方にお伺いします。クラウドファンディングのどの点にメリットを感じられましたか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 テストマーケティングとしての活用性 | 2 従来型の融資と異なる審査基準 |
| 3 審査がスピーディー | 4 利用プラットフォームの選択可能性 |
| 5 資金調達手法が多様化する | 6 企業イメージの向上 |

6-c 5-(c)社債の発行(私募債)について、「1 利用している」または「2 興味がある」と回答した方にお伺いします。社債(私募債)のどの点にメリットを感じられましたか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------|
| 1 規模の大きな資金調達が可能 | 2 償還期間が長期 | 3 発行手続きが簡便 |
| 4 資金調達手法が多様化する | 5 企業イメージの向上 | |

7 5で一つでも「2 興味がある」または「3 興味がない」と回答した方にお伺いします。利用していない理由を教えてください。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 1 現状の資金調達手法で十分 | 2 情報が不足している | 3 手数料や金利等が高い |
| 4 手続きが複雑で難しい | 5 特徴がニーズに合致しない | |

8-a 5-(a)資本性借入金について、「4 知らない」と回答した方にお伺いします。資本性借入金の概要は、「長期の期限一括償還、成功判定型の金利設定、さらに金融検査上、負債ではなく自己資本とみなされる借入金」です。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 興味がある | 2 興味がない | 3 よく分からない |
|---------|---------|-----------|

8-b 5-(b)クラウドファンディングについて、「4 知らない」と回答した方にお伺いします。クラウドファンディングの概要は、「インターネットを介して、不特定多数の人々から少額ずつ資金調達する手法」です。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 興味がある | 2 興味がない | 3 よく分からない |
|---------|---------|-----------|

8-c 5-(c)社債の発行(私募債)について、「4 知らない」と回答した方にお伺いします。(c)社債の発行(私募債)の概要は、「一般に広く募集される公募債(不特定多数の投資家を対象)とは異なり、少数の投資家(金融機関)が直接引き受けする社債」です。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 興味がある | 2 興味がない | 3 よく分からない |
|---------|---------|-----------|

9 金融商品取引法の改正によって、5月から非上場株式への株式投資型クラウドファンディング(※インターネット経由で株式を発行し、多数の資金提供者から少額ずつ資金を集める株式形態の資金調達手法)解禁となり、非上場会社の新たな資金調達手法の一つとして、期待されています。該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 興味がある | 2 興味がない | 3 よく分からない |
|---------|---------|-----------|

第94回横浜市景況・経営動向調査（特別調査）

発行：横浜市経済局政策調整部経済企画課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電話：045-671-2566 FAX：045-661-0692

調査機関：株式会社帝国データバンク 横浜支店
〒231-0007 横浜市中区弁天通4-51
電話：045-641-0232 FAX：045-641-2555



OPEN
YOKOHAMA